

2023/3/26 (日)

息子と私と五行歌と

とよたかふみひろ
豊高文滉 (27 歳) の母・豊高明枝

五行歌筆名・桑本明枝 (旧姓を筆名に使っています)

こんにちは。枚方市在住の豊高と申します。私には二人の息子がいて、上の子が自閉症で重度の療育手帳をもらっています。下の子も配慮を要するひとです。今日は、上の子・ふみひろのことと、子育てのなかで私が出会った五行歌（ごぎょうか・五行に書く短い詩）について、お話させていただきます。

○息子の育ち～保育所から、養護学校小学部、地域の小中学校へ

ふみひろは現在 27 歳です。2 歳で指さしができず、親子教室に 1 年通いました。そこで集団に入れることを勧められました。療育園が満員で、障害児保育に取り組んでいた保育所に申し込んだら空きが出て、加配担任をつけてもらい、4 月 2 歳児クラスに入りました。就学は迷ったのですが、「小学校は生活の場ではなく教育の場ですよ」と巡回指導員に言われ、地域の小学校が遠かったこともあり、養護学校（当時）に入学させました。一方、多動で放課後の時間が心配だったので、地域の小学校ではないのですが、うちから近くて保育所のお友達が皆行っている H 小学校にある H 留守家庭児童会（学童保育）に行かせてもらいました。養護学校に通学するためのスクールバスのステーションを登校と下校で変えてもらい、登校は自宅近くから、下校は H 小に近いところで降ろすようにしてもらい、そこから私が自転車で H 小まで息子を連れて行きました。

養護学校は最初とてもよかったのですが、2 年になると息子がぼーっとおもしろくなさそうな感じになりました。一方留守家庭児童会のなかで彼なりにいろんなことを学んでいるのを見てすごいなと思いました。そんな時、「地域に戻って見たら？」と言ってくれる方がいて、地域の S 小学校に相談に行き、1 年の準備期間を経て 4 年からそこに転校しました。学校ではクラスのお友達がすぐに受け入れてくれて、特に女の子が本当に上手に面倒を見てくれて、感心しました。全ての時間を原学級で過ごし、毎日 2 時間加配の教師が来てくれました。留守家庭児童会は、H 児童会から S 児童会に変わりました。少人数だった H 児童会と違い、S 児童会は約 100 人の児童がいて、2 つの教室で、障害児も複数受け入れていて、とても忙しそうでした。S 小のクラスでは担任が「ふみ君にもいいところがある」と息子を中心にクラス運営をしてくれ、クラスのお友達もとても好意的でした。でも、S 児童会は息子は「あほな奴」と見下されていたようです。子どもたちの目線が冷たい。指導員が「あの子はあんな風だから」という風に言っていたようです。同じ学校の同じ児童なのにこうまで違うのかと驚きました。指導者の意識次第です。

さて、中学校は小学校のすぐ目の前にあり、入学前の年の 6 月くらいに相談に行き、あまり不安もなく入学しました。最初「大丈夫です」と言い張って普通学級で入ったのですが、技術の時間などに工作機械の前を立ち歩いたりして危険だ、先生の手配をつけないといけなからということで、夏から支援学級在籍となりました。毎日 2 時間支援学級の教室でマンツーマンの授業を受けて、あとはクラスで授業を受けました。といっても、支援学級の教室では、少し漢字の勉強を先生と一緒にしたりして、あとはのんびりゲームなどをさせてもらっていたようです。

○みんなと一緒に高校に行きたい！

小学校に転校してまもなく、北河内連絡会の学習会に参加して、養護学校高等部以外の選択肢が可能であることを知りました。そこで、「高校は、支援学校には行かず、受検を希望します」と中学入学時から宣言して、定期テストも、名前もろくに書けないけれど、零点でもいいから、みんなと同じテストを受けさせてもらい、内申の点数が出るようにしてもらいました。大阪市内での高校進学を考える会の例会にも毎月息子と一緒に参加しました。息子の高校受検の年は、ちょうど橋下府知事が私学無償化の政策を打ち出した年でした。受験生が私学に流れ、「定員割れ」となった全日制の普通高校に入学することができました。

高校入学時には「2年に進級できませんよ」と言われていましたが、進級できました。「親がついてこないと無理」と言われた修学旅行にも校長先生と一緒にいって見守ってくださり親抜きで参加、北海道でのスキーを楽しむことができました。

問題がなかったわけではありません。自宅から少し遠い高校で、京阪電車とJRを乗り継いでさらに20分余り歩いて行くのですが、通学途中遅刻しないように早く歩きなさいと私がかみかみ言ったせいだと思います、母の付き添いを嫌がり道路に飛び出すようになりました。そこで、ボランティアを募りたくさんの方にお世話になり、一緒に付き添ってもらって登下校しました。ここにおられる関山先生にも毎週水曜日でしたか、送り迎えしてもらいお世話になりました。北河内連絡会の皆様には、問題が起こる度に一緒に考えてもらったり、時には学校との話し合いに同席してもらったり、とても助けていただきました。本当に感謝です。

2年の終わりまでとても楽しかった高校生活ですが、3年になると周囲は就職や進学に向けて動き出し、取り残された感じがしたのか、息子は校内で先生のバイクをわざと倒し、「もうしません」と誓った翌日またバイクを倒したりして、半年間停学になりました。けれど卒業式に向けて、週一度の登校などの取り組みを行ってもらい、卒業式前日に復学、無事卒業することができました。卒業式では、特に体育の先生がとても喜んでくださって、こちらも感動しました。関山先生たちにも祝っていただきました。その後息子は生活介護の事業所に通っています。一度事業所を変わり、現在に至っています。

○息子の課題

息子は何がいちばん好きかと言われたら、「ひとが好き」と答えます。彼は口ではあまりうまくしゃべれないのですが、鉛筆を持たせてそこに私が手を添えてやると、「筆談」で思いを書いて伝えてくれます。「いい人にであうのがぼくのじんせいのもくひょうです」といいます。でもこの頃はいい人に出会うことができなくて、それがつまらないようで、家のトイレでわざと汚したり、壁紙を剥してみたりで、お父さんはカンカンです。「ひとが好き」というのはとてもすばらしいことだと思いますが、それが叶わないからイタズラするというのは、ちょっと違いますよね。それが彼の課題で、我が家の課題でもあります。「今日は、いいひとがいっぱいいるところに行くよ。自分から何か挨拶できればいいね。お話しできればいいね」と言って一緒にここに来ました。「息子よ、がんばれ！ 自分でいいひと見つけて来いよ！」と私は彼に言います。

実は、普通高校に進学したのも、そこで誰かいいひと、すなわち彼に共感し支えて共に生きていってくれるひとを一人でも見つけてほしいと願ってのことでした。残念ながらそれは叶わなかったのですが、彼は今も「のぎきこうこう2年生！」と言います。パソコンや漢字の授業でがんばって、修学旅行にも行って、いちばん楽しかったときのことを思い出すようです。そんなに楽

しかなかったのならそれでよかったんだよね。私はそう思っています。

○「五行歌」について

さて、「五行歌」についてですが、これは短歌や俳句のように字数や季語などの制限がなく、ただ5行に書けばいいというとても簡単なものです。日本語は何か考えや気持ちをまとめて書くと、自然に5行になっちゃうようです。毎日ふと思うようなことを5行に書けばいい、短い言葉なので思いついたらささっとメモして、それでできあがりということです。

多動な子の子育ての真っ最中に知人に五行歌の同人誌をもらい、「これだ!」と私は思いました。五行歌の魅力は、「自由」です。1人1人の個性がそのまま最大限に尊重されます。23年前、下の子が生まれて2ヶ月の時に私は五行歌と出会い、それにはまって、ずっと書き続けています。

一昨年秋と昨年夏、これまで作った作品をまとめて、歌集として自費出版しました。一昨年の冬たまたま代理投票のことで取材してくれた記者さんにできたばかりの歌集をお渡ししたら、それを隣の席の女性記者さんに読んでみたらと薦めてくださり、その女性記者さんが興味を持ってくださって、11月に取材を受けました。自宅にも来てもらい、息子と「筆談」している写真なども撮ってもらいました。そうしてできた新聞用の記事が12月20日に配信され、その後毎日新聞大阪版や京都新聞他いくつかの新聞に載り、また今月4日には、Yahoo!ニュースに、新聞記事より長い数ページの記事が載りました。それをきっかけに親の会で五行歌のミニ講座をしたり、五行歌の輪が広がっています。

私は五行歌で、子どものことばかりを書いているわけではないのですが、でもやはり障害を持つ息子のことは、私の大きなテーマです。ちょっとこの後に自作の五行歌を紹介させていただきますね。

子のことでショックなことがあってもそれを五行に書けば少し落ち着くことができます。逆にうれしいことがあってそれを五行に書けばうれしさ倍増、そして周囲の人たちにも読んでもらうことができます。辛い思いも書くことで手放すことができる、そんな気持ちでこれまでたくさんの五行歌を書いてきました。

『コケッコの妻』『緑の星』という、私の2冊の歌集は、枚方の図書館にも寄贈しています。ぜひ皆さま図書館にリクエストしてお読みくださいませ!

○「病は市に出せ」。弱みをさらしても大丈夫! そして、戦争はどんな理屈があってもダメ

親が高齢になったときに息子を託せる場があるのか。また、その場所で彼がうまくやっっていけるのか。等々心配はまだまだあるのですが、くさらずあきらめず、進んでいきたいと思っています。仲間と支え合っていければいいなと思います。

最後に。今世界の情勢は厳しくなっています。ウクライナ侵攻はもちろんのこと、日本の周囲でも緊張の場面が時折ニュースで報道されたりします。非常に危険な状態です。もしも、戦争状態になったときに、真っ先に切り捨てられるのは弱いものです。障害を持つ人や子に対する施策は細り、周囲からの風当たりも厳しくなるでしょう。ナチスがまず障害児を「安楽死」させたことを思い出してください。ですから、選挙では、戦争はしない、絶対しない、と言う候補者を選んでください。しっかりと目を開いて、本当にこの人に、この党に、我が子の世代を託せるのか、考えて、一票を投じることがとても大切だと思います。

以上